

宮城県漁業士会

▶▶ 第一号 ◀◀

会報

平成10年1月

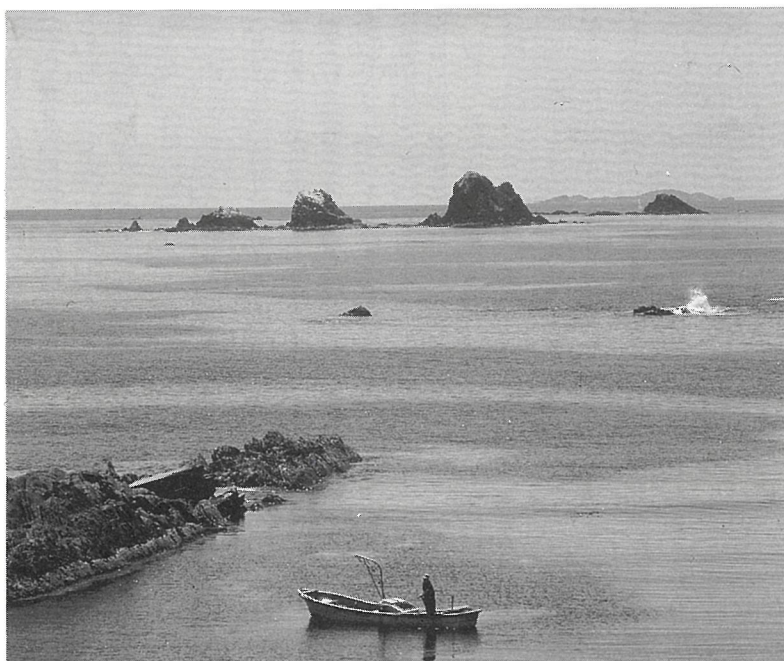
発行 宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号

(宮城県水産林業部水産課内)

TEL 022-211-3034

FAX 022-211-3099



発刊にあたって

宮城県漁業士会 会長 遠藤 勝彦

「明日の明るい漁業」を標榜して発足をみた我が宮城県漁業士会。

早くも七年の歳月が過ぎようとしております。この間、関係各位のご援助のもとに多様な事業に参画を致し、また、北・中・南三支部の会員皆さんの活発な活動と相まって、徐々にではありますが、組織としての形勢を整えつつ有るのではと自負して居ります。

その顕著な例が今夏のオーストラリア海外視察研修ではないでしょうか。直にこの目で海外の情勢を見聞したい、という熱意が結実し、五人の仲間が県の派遣で、「我々の漁業はどうあるべきか」を外国の地を踏みつつ、学べたことは大きな成果の一つで有ると思います。

このような事柄を皆さんに周知するべく、また各浜で存在感があり、漁業のみならず多方面でリーダーとして活躍なさっている皆さんのその英知を、なお結集させて戴きたく、今般「会報」の発行を手掛けることにいたしました。とり敢えず年一回を念頭に、情報量次第で二回〜三回になればと考えて居ります。

この会報発行が会員相互の連携を密にし、厳しい漁業の現実下にあっても常に「海のロマン」を失うことなく、僅かでも生産向上の一助になればと願って居ります。

結びに、関係機関の

総ての皆様の平素のご協力に深謝致しますと共に、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。初刊行にあたってのご挨拶とさせて戴きます。



オーストラリアカキ養殖技術研修に参加して

内海信吉

(塩釜市浦戸漁業協同組合)

平成九年度宮城県漁業士会の新規事業として漁業士会初の海外派遣研修が、オーストラリアのカキ養殖技術と輸出を含めた流通、衛生管理などの研修を目的として実施されました。

参加者は漁業士会北部支部から一名、中部支部から三名、南部支部から一名の計五名で、平成九年八月三十日に仙台を出発し、まず、オーストラリアのカキの一大生産地であるニューサウスウェールズ州で州政府水産局からカキの生産状況と流通、衛生管理について研修を受けた後、タスマニア州に移動し、実際にカキ



オーストラリアにて

研修月日	研修地区	研修先
9月1日	SYDNEY(シドニー)	SYDNEY FISHMARKETS NSW OYSTER DISTRIBUTORS PTY LTD NSW FISHERIES (ニューサウスウェールズ州水産局)
2日	HOBART(ホバート)	TASMANIA DEPARTMENT of PRIMARY INDUSTRY and FISHERIES (タスマニア州農林水産省水産資源局) MARINE RESEARCH & ASSESSMENT BRANCH (水産省計画局研究部)
3日	BICHENO(ビッチェノ) LITTLE SWANPORT (リトルスワンポート)	SHELLFISH CULTURE LIMITED LITTLE SWANPORT (養殖型養殖場)
4日	DUNALLEY(ダナリー)	CAMERON of TASMANIA PTY LTD PIPECLAY LAGOON (養殖型養殖場)

研修日程

豊島 富美志 (石巻市東部漁業協同組合)
今回の研修に参加して、「一九四八年頃の万石浦産の種ガキ」と再会できました。一週間の日程で、ハードなスケジュールの中で、養殖場での人工採苗から生産までの研修をしました。

今回の見聞を、漁業者の皆様に御報告して行きたいと思っています。

伏見 真司 (荻浜漁業協同組合)
オーストラリアカキ海外研修に行つて、宮城県の養殖方法とオーストラリアの養殖の違いは、向こうでは大半が潮間型の養殖方法をとって居り、殻の成長は遅いものの、形、味ともに良かった。また、海にはゴミなど全然なく、浅瀬だが水が透き通っていて、きれいな環境で養殖しているのには驚きました。

一言コメント

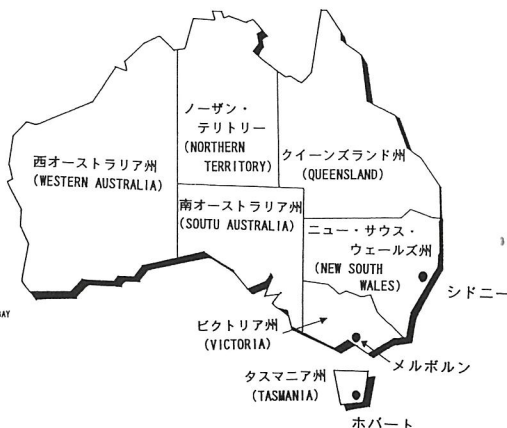
豊嶋 祐二 (荻浜漁業協同組合)
大自然の中の漁場は生活排水などで汚染されていなく、漁場環境は非常に良いが、人口が少ないため、有機物が少ないので成長が遅いようだ。

このように、現在自分の行なっているカキ養殖との違いが分かるなど、貴重な体験を得る機会に恵まれ、関係各位に対し深く感謝すると共に、今後もこのような研修に多くの若い後継者の皆さんに参加して欲しいと思います。

会長 遠藤 勝彦 (志津川町漁業協同組合)
養殖技術等即、国内で採用できる事柄は多くありませんが、物を見る角度、考え方等を勉強させて戴いた気がします。また、八日間仲間と共に深夜まで話し合えたこと、それが私にとって最大の収穫と思つて居ります。



タスマニア州地図



オーストラリア地図



オーストラリアにて

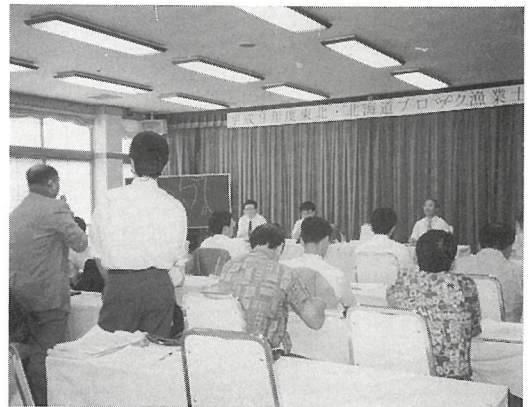
東北・北海道ブロック 漁業士研修会に参加して

木村 久

(女川町漁業協同組合)

年に、一、二度の新幹線の利用は珍しく、視線が一定しない。盛岡駅で仲間と合流、「おつ、いだいだ」の挨拶で顔合わせになりました。青森の浅虫に着いた頃、腹の虫が泣きはじめ、直に昼食。味わう暇もなく、宿から水産増殖センターへ。青森県漁業士会長の挨拶ではじまり、次にセンター所長の概要説明がありました。特に、養殖場にはブイロボットによる海況自動観測ブイが三カ所に設置され、一時間毎に観測を行っているものです。天候にも恵まれ、ホタテガイ養殖施設の洋上研修に最適でした。それぞれ五隻の船に分乗し養殖場へ。広い海、遠い漁場、全速で三十分の距離、近くにはフェリーが往来しているうらやましい限りの漁場スペース。試食のため、ホタテガイ五連程揚げて、ブイロボットを見学してからセンターへ。一人三枚の試食。全く旨くない、味が無い、それでも皆さんは旨そうに食べている。

懇親会には遠藤会長はじめ、相互的に沿岸漁業の様子など酒を酌交わしながら意見交換ができました。二二二号室では、伊藤漁業士が積極的な考えのもとで明日の道県漁業士会の活動状況を発表する事になり再度乾杯して、ディスカッションが開かれ、互いに漁業士としての立場を踏まえた心に残る親睦会でした。



ブロック研修会

翌日、水産庁の福田課長補佐の挨拶で開会され、各道県の発表がありました。活動状況は、それぞれ異なっても漁業士のあり方、役割、位置づけの方向等、まだ互いに疑問がある様で、その辺の共通した考えで意見交換がありました。

青森県の漁業士が後継者の育成と指導、また地域の漁業の振興に自分の仕事を犠牲にしながら頑張っているのに、町や漁協は認めてくれないと嘆いていました。

北海道では、漁業士の意見交換がされていない事から、漁協に対する漁業士制度などを啓蒙強化するなどの意見交換の場の設定を要請していくといっています。

共通点としては、地域のリーダーとして資質の向上に努める必要がある事や知名度を高めることも不可欠である。また、社会的立場を明確にして責任感や力を十分に発揮できるように環境整備することも急務である。この点については、他の道県も同じ様な悩みを抱えていると思う

が、私自身は適切な漁業管理や漁業振興に社会的貢献ができるなら、自分の仕事の犠牲や経済的なデメリットがあっても痛くはない。何故なら、それらの行動によって純利益が生まれてくるのではないかと。そして、自ら情報発信してこそ自分の能力が発揮できると思います。私は、ブランドトンや小魚でよいのです。地域の骨になるならおしまない。



ホタテガイ養殖現場

支部だより

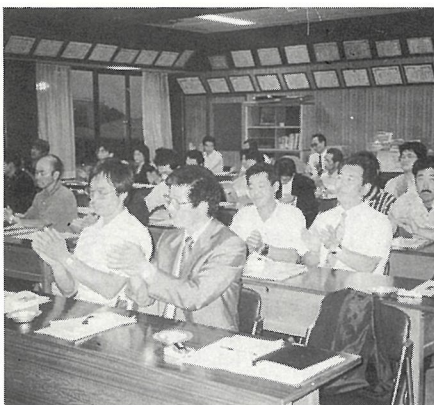
▲北部支部

高橋 源一

(志津川町漁業協同組合)

皆さん、こんにちは、それでは北部支部の中の志津川地区漁業士会についてお話しいたします。

始めに、この会の発足についてですが、県の漁業士会の総会が有った折り、二次会の席で志津川地区の漁業士さん方が、「地元」に居てもなかなかこうして一緒に膝を交えて飲めねえ」という事が発端になり、「ほで、志津川の集まりをつくっ



「明日の宮城の水産業」

べ」ということで、どうせ作るんだから県会議員、町長、漁協の組合長さん方の出席を貰うように設立総会を開くべとなり、事務局を町の水産課に心良くお引き受け頂き、また気仙沼水産事務所の及川さんに助言を頂き会則を作り、少し大変でしたが平成七年十二月十三日、押し迫った設立総会となり、町長始め七名の来賓、会員七名で盛大に開催されました。こうして志津川地区漁業士の会が遠藤昭吾会長のもと船出をし、町の水産関係の委員の選出、情報交換、研修会には漁業融資制度、水協法など、講演会等では平成九年九月に遠藤勝彦漁業士の海外研修報告を兼ねた宮城県水産高等学校 鈴木良治校長による「明日の宮城の水産業」には、北部支部長さん始め五十名近い参加がありました。或いは、小学校の地曳き網の協力等、後先になりましたが、平成九年四月からは二名の会員が入り九名で活発に活動をして居ります。

今後は、異業種交流などもしてみたいと思っています。それから、北部支部より活動助成金を頂き有難うございました。

▼中部支部

自主企画学習会に参加して

●カキ養殖について

鈴木 公義

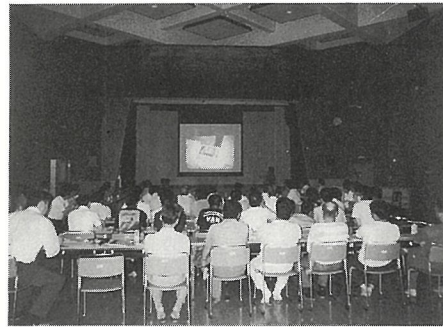
(女川町漁業協同組合)

漁業士の認定以来、「漁業士って何だろう、何をすればいいんだろう。」という疑問を持っていました。そんな中、カキ学習会を開催するということになり、私は発表者として参加させていただきました。その後二回目、三回目と参加し、事前の打合せや当日の学習会においての先輩の方々の付き合いの中で、彼らの行動力や知識、意識の高さに感心させられました。ある人が「誰のためではなく、自分のために勉強し行動して、自分を高めることが周りの人達の活力を生み、浜を活性化させるのではないか。」ということを書われました。誰のためになどと大それたことを考えず、自分達のために、



カキ学習会

例えば学習会などをコツコツ続けていくうちに何か大きなことができたらと思います。我が漁業士会は少しずつ動き出しています。これから、この動きを止めることなく、意識の高い集団であり続けたいと思います。



ホタテガイ学習会

●ホタテガイ養殖について

中村 司

(雄勝町東部漁業協同組合)

平成九年七月三日、我々雄勝町の漁業士が中心となり第一回「ホタテ学習会」を開催しました。

内容は、技術交流事業で東京築地市場等を視察研修した「消費地でのホタテ流通事情、販売対策」について報告し、また「ホタテ安全シール」の仕組について講演を頂き、その後参加者全員で色々な質問や意見があり、有意義な学習会であったと思います。

これからも、第二回、第三回と学習会

を続け、中部地区の漁業士だけでなく、県内のホタテ生産地区の漁業士にも参加頂き、ホタテ養殖に係る様々な問題に対処できるような学習会にしたいと思っています。

●資源管理型漁業について

副会長 三浦 正信

(矢本町漁業協同組合)

漁業士及び関係漁業者を対象に一回目の学習会を実施しました。資源管理型漁業(安定的水産資源の恒久的利用)を行なうために、漁業の現況と問題、また漁業者が問題解決のためにどのようなかわりをすべきか、意見交換をしながら話し合いました。業種によっての管理型の進め方、隣県との漁業調整の問題、漁業者が実行できる管理型漁業を目標に学習会を実施して行き、多くの漁業者が参画できるようにして行きたいと思っています。



資源管理型漁業学習会

▼南部支部

南部支部紹介

副会長 木村 進

(亘理町漁業協同組合)

漁業士制度は、昭和六十一年にスタートしましたが、当南部支部は、平成四年八月二十四日に、昭和六十一年〜平成三年認定の青年漁業士二十四名、指導漁業士三名、合計二十七名の会員をもって県下他地区に先駆けて設立されました。

平成九年十一月一日現在の会員は、指導漁業士十一名、青年漁業士二十一名、合計三十二名となっております。支部長の木村進指導漁業士(亘理町漁業協同組合、平成六年度認定)をはじめとして、副支部長の土佐勝彦指導漁業士(宮戸漁業協同組合、平成八年度認定)、委員の鈴木享青年漁業士(花洲浜漁業協同組合、平



平成9年度漁業士会南部支部総会

成元年度認定)、監事の大山茂宏青年漁業士(松島町漁業協同組合、平成元年度認定)の四役員を中心にお互いに連携をとりながら各種事業を行っています。

会員が従事している漁業は、ノリ養殖十九名、カキ養殖十名、その他漁船漁業三名であり、南部地区の漁業形態を反映したものとなっていますが、好漁場である仙台湾を中心に活動している漁船漁業



通常総会における研修会

関係の漁業士が少なく、今後の資源管理型漁業への取組の充実を考えると、新たな加入が望まれています。

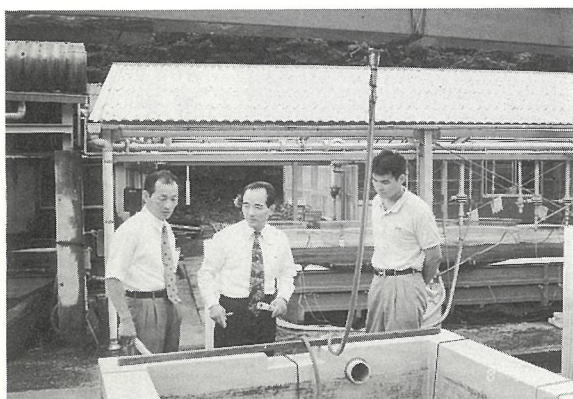
支部の主な活動は、通常総会・地域漁業士懇談会・研修会の開催、水産青年フォーラムなど各種普及活動への講師派遣、交流学習事業としての視察研修などですが、平成九年度も、通常総会開催の他に「オー



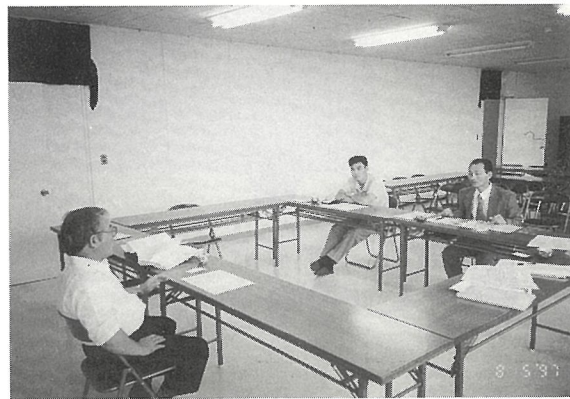
海洋教室に係る講師派遣

「ノリ養殖協業化」の先進地視察研修を既に実施しました。また、十二月には、弟分である漁青連南部支部との共催で、海外研修の視察報告会を開催し、視察研修の成果を紹介すると共に「ウニの移植放流について」の研修会を開催し、移植によるウニ増殖の在り方について意見交換を行いました。

TAC制度の施行をはじめとして漁業の仕組そのものが大きく変貌を遂げようとしている今日、私達漁業士が率先して働く機会も益々多くなるものと思われま



交流学習事業(佐賀県 栽培漁業)



交流学習事業(佐賀県 ノリ協業化)

新会員紹介

平成九年三月二十五日に行われた漁業士認定証交付式において、新たに指導漁業士四名、青年漁業士十一名、合計十五名の漁業士が認定されました。新会員の所属組合及び従事している漁業種類をご紹介します。

一 指導漁業士

菅 原 勝

志津川漁業協同組合
カキ・ワカメ養殖

木 村 千 之

表浜漁業協同組合
カキ養殖

遠 藤 豊 勝

牡鹿町漁業協同組合
ワカメ養殖 漁船漁業

伊 藤 俊 一

花浜漁業協同組合
刺網漁業他

二 青年漁業士

小野寺 敏 一

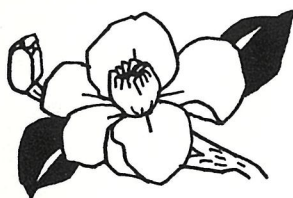
志津川町戸倉漁業協同組合
カキ・ホタテガイ等養殖

相 沢 開

石巻湾漁業協同組合
ノリ養殖他



漁業士認定証交付式記念写真



齊藤 幸一

石巻湾漁業協同組合
種ガキ・カキ養殖

大江 清明

女川町漁業協同組合
ホタテガイ養殖

鈴木 強

女川町漁業協同組合
ホタテガイ養殖

須田 稔樹

表浜漁業協同組合
カキ養殖 定置

西條 武

北上町十三浜漁業協同組合
カキ・ホタテガイ等養殖

佐々木 克弥

北上町十三浜漁業協同組合
カキ・ホタテガイ等養殖

後藤 晃

鳴瀬町漁業協同組合
カキ養殖

尾形 文秀

鳴瀬町漁業協同組合
ノリ養殖

内海 信吉

塩釜市浦戸漁業協同組合
カキ養殖他

宮城県漁業士会

「会報」の名前

の募集について

宮城県漁業士会では、会報の名前を募集して居ります。素敵な名前、ユニークな名前を付けて下さい。応募は、平成十年二月末日までとし、各支部長あて連絡下さい。

編集後記

三浦 正信

会報第一号の発行にあたり、漁繁期中、カキ、ホタテガイ、ノリ等の作業に一番大変な時期に原稿を無理にお願いしました所、心良く引き受けて頂き有り難うございました。編集委員の正副三名で夜遅くまでかかり編集しました。これからも、漁業士間の情報の提供や浜の状況など盛りだくさんの会報を作って行きたいと思っています。